

タイにおける高品質米の生産・流通と 輸出拡大戦略

板垣啓四郎*, トワムヤン・サイジャイ**

Production, Marketing and Strategy for Increased Export
of High Quality Rice in Thailand

Keishiro ITAGAKI, Thuamyung SAIJAI

Abstract

A purpose of this paper is to clarify some questions shown as follows, based on the result from in depth interview to the concerned persons and questionnaire for rice farmers in Thailand. How are farmers producing a high quality rice under the given conditions on cultivation and farm management? What roles are rice miller and trader playing in order to meet the increased demand for high quality rice in local market as well as export market? What actions should rice exporters take for the increased rice export? This paper is summarized as follows.

1) During the last decade in Thailand, consumption, production and export for the high quality rice have been increasing significantly. The selling price as well as export price are relatively higher than ordinary rice. Southern part of northeast region in Thailand is production centre for high quality rice.

2) The targeted farmers are producing a high quality rice with use of self-acquired seed and low agricultural input at the rain fed paddy field. A harvested paddy is moving to the local rice miller and rice assembler for sale. A middle sized land holder has the highest profit per one rai (= 0.16 ha).

3) Brokers handling the milled rice are playing important roles in terms of collecting and disseminate the market information for rice farmer and negotiating the price with stakeholders. Guaranteed rice price policy is effective in enhancing the production and income for rice farmers, as well.

4) In order to increase the high quality rice for export, tasks tackled should be put on reducing the production cost while keeping the high quality of rice and falling down the export price. Needed actions should increase rice production under the use of improved seed, reducing the marketing cost through the adequate market competition and properly determining the market price for rice.

はじめに

タイは世界有数のコメ生産国であり、また世界トップのコメ輸出国であることは広く知

られている。今後とも、世界屈指のコメ生産・輸出国としての地位が揺らぐことはないであろう。

ところで、近年、タイでもコメの消費量が減少しつつあり、そのなかにあって食味にすぐれた高品質のコメに対する需要が増加して

* 東京農業大学国際食料情報学部教授

** 東京農業大学大学院農学研究科博士前期課程院生

きている。特に、高所得層の消費者や外食サービス業では、使用するコメを普通米から高品質米へとシフトさせつつある。

これに伴い高品質米の生産も増加してきているが、その生産地は栽培に適した自然環境条件と資源賦存条件を有する北部地方や東北地方など特定の地域に集中する傾向がある。特に東北地方南部に位置するスリン県などは高品質米の主要な産地となっている。各産地で生産される高品質米は、貯蔵、精米および流通の過程を経て、国内市場を充足させるだけでなく、アメリカや中国などの輸出市場へも積極的に進出している。

ところで、タイにおけるコメの生産と輸出に関してはこれまで多くの論文で明らかにされてきたが¹⁾、コメの中でも高品質米を対象にしてその生産から流通、輸出に至る実態を現地調査によって克明に分析した論文はほとんど存在しない。今後、タイにおける高品質米の需要と供給および輸出は大幅な伸長が予想されるだけに、国内流通を含むその構造の実態解明はきわめて重要な研究課題である。

本論文の目的は、高品質米産地の農家がどのような栽培と経営の諸条件のもとで生産を行い、精米業者および流通業者が国内と輸出の市場需要を充足するためにどのような役割を果たしているのか、また高品質米の輸出を拡大していくために輸出業者はどのような戦略を考えているのかについて、現地で実施したインタビュー調査とアンケート調査の結果に基づき明らかにすることである。

本論文の構成は次の通りである。1. では、コメの消費と生産および輸出の変化を特に高品質米に照準を合わせて明らかにする。また統計数値を用いて高品質米の主産地を特定化する。2. では、高品質米生産農家の栽培お

よび経営の実態と特徴を、農家に対するアンケート調査の結果に基づいて整理する。3. では、高品質米を含めたコメの流通システム、価格決定メカニズムおよび精米業者・流通業者の果たす役割について明らかにする。4. では、高品質米の輸出拡大戦略について明らかにする。5. では全体を要約し結論を導出する。

1. コメの消費・生産と輸出の動向

1.1 消費動向

タイでは、近年コメの消費量が徐々に減少してきている。年間1人当たりコメ消費量(精米ベース)は、FAOの統計に基づく推計値²⁾ではあるが、1997年に119.9kgであったものが、2007年には103.1kgへと減少した。都市部では農村と比較してコメの消費量がさらに少ない³⁾。ただし減少を続けるなかにあって、高品質米の年間1人当たり消費量はこの間に27.4kgから38.1kgへ増加したと推計される⁴⁾。コメの消費量が全体として減少しているなかにあって高品質米が増加しているのは、冒頭で述べたように、消費者が所得水準の上昇を背景に多少価格が高くても食味にすぐれ嗜好性の高いコメをスーパーマーケットなどで買い求め、また外食機会の多い都市部にあっては、外食サービス業の一部が利用者の好む高品質米を使うことによるものと考えられる。

ところで、高品質米とは何を意味し、どのように定義づけられるのであろうか？ 高品質米は、Hom Mali Rice ないしは Jasmine Rice と称してタイの国内外で広く知られている。Hom Mali Rice はもともとタイ中央部の農村に起源をもつ在来種であるが、その後品種改

表1 タイにおけるコメ生産の推移 (1999-2008年)

(単位: トン)

	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
雨季作	19,015,669	19,788,369	22,409,540	21,566,208	23,141,776	22,649,877	23,539,186	22,839,695	23,308,386	23,235,476
Hom Mali Rice	4,201,210	4,461,238	5,587,640	5,357,729	5,434,629	5,729,893	5,811,261	5,916,618	5,967,168	6,032,803
乾季作	4,335,550	5,155,743	6,055,509	5,624,206	6,425,614	6,331,745	5,888,354	6,752,684	6,802,176	8,791,016
総生産量	23,351,219	24,944,112	28,465,049	27,190,414	29,567,390	28,981,622	29,427,540	29,592,379	30,110,562	32,026,492

注: Hom Mali Rice は雨季作の内数である。

出所: Office of Agricultural Economics, Thailand からダウンロードした統計値を用いて筆者が作成。

良を重ね、現在では Khao Dawk Mali 105, Kor Khor 15 などが主要品種となっている。Hom Mali Rice はタイ米特有の自然な芳香をもち、食感が軟らかく少し粘性があって栄養価も高く、国内外の消費者に広く受け入れられている⁵⁾。また、栽培上では化学肥料や農薬をほとんど用いておらず、低投入栽培に基づいた健康米である。

2010年8月下旬にバンコクのスーパーマーケットで聞き取り調査をしたところ、最もよく売れているコメは、Khao Dawk Mali 105 という品種を使った Royal Umbrella というブランド名の高品質米(白米 5kg で店頭価格 221 バーツ)であり、品質保証のマークが袋に印刷してあった。このほかにも様々なブランド名の高品質米が棚揃えしてあり、価格もおおよそ白米 5kg で 200~260 バーツの間であるが、普通米に比較して 10~20%ほど価格が高い。

1.2 生産動向

コメの生産量は、表1で示すように粗米ベースで1999年の2,335万トンから2008年の3,203万トンへと過去10年間に900万トン近くも増加した。雨季作・乾季作別に生産量の変化をみると、雨季作米はこの間に1,902

万トンから2,324万トンへ422万トンの増加を示す一方で、乾季作米は434万トンから879万トンへ445万トン増加した。他方、雨季作米に含まれる Hom Mali Rice は、420万トンから603万トンへ増加した。Hom Mali Rice はコメ生産量全体のほぼ20%を占めている。タイ農業経済局 (Office of Agricultural Economics) から出されている統計データによると、Hom Mali Rice の生産量が多い県は、2006年でスリン県(98万トン)、ブリラム県(74万トン)、シサケット県(70万トン)などである。このほかにナコンラチャシマ県、ウボンラチャタニ県、ロイエット県もそれぞれ50万トン前後の生産量があり、これらの県が集中する東北地方南部がいわゆる高品質米の主産地である。とりわけスリン県は Hom Mali Rice の栽培に最も適している地域として知られ、Thung Kula Rong Hai 地区はその栽培の中心地といわれている。Hom Mali Rice の栽培条件は、①1日当たり10~11時間の日照時間が得られること、②灌漑用水よりも温度が低い雨水の供給があること、③塩分を含んだ土壌であることとされており⁶⁾、この諸条件の整ったところがスリン県といわれている。Hom Mali Rice の栽培は通常年1回の雨季作であり、6~8月の間に播種し、11~

表2 タイにおけるコメの総輸出量と Hom Mali Rice 輸出量の推移 (1998-2009 年)

(単位: トン)

	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
総輸出量	6,540,234	6,838,792	6,141,341	7,685,050	7,334,447	7,345,970	9,976,588	7,495,903	7,494,140	9,192,517	10,216,127	8,619,870
HMR 輸出量	—	—	—	—	1,492,995	2,202,796	2,259,832	2,311,071	2,599,290	3,067,569	2,515,929	2,631,133

注: HMR は Hom Mali Rice の略称. HMR 輸出量は総輸出量の内数である.

出所: 表1と同じ.

1月の間に収穫する.

1.3 輸出動向

コメの輸出量は、表2で示すように1998年の654万トンから2009年の862万トンへと増加してきているが、この間に800万トンから1,000万トンの幅を上下しながら推移している。このうち Hom Mali Rice は、正確な統計がとれる2002年の149万トンから2009年の263万トンへと増加してきているが、2007年には307万トンにも達した。輸出される Hom Mali Rice の輸出来全体に対する比率は、2002年の20%から2009年には30%へと上昇している。輸出来を種類別により詳しくみると、2009年では、Parboiled Rice (33%)、白米 (24%)、Hom Mali Rice (20%)、Hom Mali Rice の碎米 (10%)、白米の碎米 (6%)、もち米ほか (7%) であった (Thai Rice Exporters Association 2010)。Hom Mali Rice の輸出相手先国は、主要輸出品である白米 B 級品 100% で、2009年にアメリカ (35万トン)、コートジボアール (16万トン)、中国 (13万トン)、香港 (13万トン)、シンガポール (11万トン) などである⁷⁾。また、タイ商業会議所から発表されている Hom Mali Rice 輸出価格 (FOB ベース) の動きをみると、2002年にトン当たり年平均で316ドルであったものが、2008年 (1-10月) では924ドルへ、一方普通白米100%の輸出価格はこの間に201ドルから721

ドルへとそれぞれ大幅に上昇した。もっとも2008年は世界的にコメを含む穀物の価格が急騰した年である。Hom Mali Rice の輸出価格は2008年6月以降下落する傾向を示したものの2009年に入ってじわじわと上昇に転じ、9月には1000ドルを超えた (Thai Rice Exporters Association 2010)。

1.4 小括

このように、近年タイでは高品質米の消費、生産、輸出が増加してきており、コメ全体に対するこれらのウェイトも高まってきている。またその販売価格および輸出価格も普通米に比較して相対的に高い。これに加えて、高品質米の産地は東北地方南部に集中していることが判明した。

2. 高品質米生産農家の栽培と経営の実態

高品質米の主産地であるスリン県は、自然的諸条件に起因して元来稲作には適さず、国内でもきわめて貧困な農村の一つであった。そこで地域振興を図るべく、政府米穀局 (Rice Department) は1959年以降アメリカやオーストラリアからの資本と技術の協力を得てコメの品種改良を重ねていった。その結果、地域の諸条件に適した Khao Dawk Mali 105 が選出された。これと並行してダムやため池の

浚渫、土壌改良等の事業が着手され整備されていったことも背景にあって、高品質米の栽培が農家の間に急速に広まっていった⁸⁾。

スリン県において高品質米を生産している稲作農家の栽培と経営の実態を把握するために、2010年8月下旬から9月初旬にかけて、稲作農家61戸に対する質問票調査を実施した。以下にその結果の概略を示すが、61戸のうち10戸は同じ東北地方に所在するコンケン県に属する農家であるので除外し、ここでは51戸のスリン県の調査結果について明らかにする⁹⁾。

調査項目は、農家の属性、農協など組織への加入状況、農地の保有と灌漑の状況、作目別農地面積と作物構成、コメの品種と栽培方法、コメ栽培に投入された作業別労働時間と労働コスト、コメ栽培に用いられた農業投入財とそのコスト、コメの生産量と単位面積当たり収量、コメの販売先、流通コスト、コメの栽培と流通上の問題点についてである。ここでは、それぞれの項目のいくつかについて平均した値を示すことにとどめ、この数値をもとに高品質米生産農家の栽培と経営の実態と特徴について明らかにする¹⁰⁾。

2.1 調査農家の概況

農家の平均世帯員数は3.8人であり、家族労働力は夫婦のみが圧倒的である。世帯主の平均年齢は56.4歳で、学歴はほとんどが小学校卒である。ほとんどの農家がコメ（高品質米）の栽培だけに専念している（90.2%）。大部分の農家は、農業協同組合、政府系の農業・農業協同組合銀行（Bank of Agriculture, Agricultural Cooperatives, 以下BAACと略す）のいずれか、もしくは両方に加入している（表3）。

2.2 栽培状況

農家のコメ栽培面積は平均で25.2ライ（4.03ha）であり、最大は79ライ（12.6ha）、最小は2ライ（0.32ha）である。農地は大部分が自作地（76.5%）、続いて自作地＋借地（19.5%）であって、すべての農家が天水に依存しており、灌漑・排水の施設利用は特でない。栽培に用いている品種は高品質米のKhao Dawk Mali 105（52.9%）、Kor Khor 15（21.6%）、その両方（23.5%）がほとんどであり、残りのわずか2.0%がいわゆる普通米である。種子はたいてい自己採種したものをを用いている。これらの品種を選択するのは、栽培が自然的諸条件に適しており、生産したコメが高価格で販売されまた食味がよいからである。栽培は雨季の到来を待って耕起した乾田に種子を直播する方法が大部分（98.0%）で、水田での田植えは一般的でない（2.0%）。1ライ（0.16ha）当たり平均収量は305.2kgであり、最大は520kg、最小は66kgである（表4）。

2.3 規模別稲作所得

調査対象農家を規模別に、栽培面積16ライ以下を小規模グループ、17-31ライを中規模グループ、32ライ以上を大規模グループとした。規模区分は恣意的にそれぞれの規模グループが17戸に均等となるよう区分けし、グループ間のサンプル数に偏りがないように工夫したもので、タイ政府の公的な階層区分の基準に依拠したわけではない。この場合規模別にみた1ライ当たりの平均総コスト（雇用労働費＋購入生産資材＋土地税・借地代）は、小規模グループ2,114.0バーツ、中規模グループ1,954.4バーツ、大規模グループ1,882.8バーツである。また1ライ当たり平均

表 3 調査対象農家の概況 (スリン県, 51 戸)

項目	実数	比率 (%)
調査農家数	総数 51	—
農家平均世帯員数	3.8	—
世帯主平均年齢	56.4	—
世帯主の就学別農家数	総数 51	100.0
教育なし	1	2.0
小学校卒	48	94.1
中学校卒	2	3.9
コメ以外の栽培作物別農家数	総数 51	100.0
パラゴム	1	2.0
サトウキビ	1	2.0
ユーカリ	2	3.9
桑	1	2.0
なし	46	90.2
農業組織への加入農家数	総数 51	100.0
農業協同組合 (AC)	8	15.7
農業・農業協同組合銀行 (BAAC)	23	45.1
AC と BAAC の双方加入	7	13.7
なし	13	25.5

出所：2010 年 8 月～9 月にかけて実施した現地調査の結果に基づき筆者が作成。

収量は、小規模グループ 326.5kg、中規模グループ 322.0kg、大規模グループ 266.9kg である。1kg 当たり農家売渡価格を 12.6 パーツ (調査時点での市場平均価格) とすれば、1 ライ当たり平均粗収入 (1 ライ当たり平均収量 × 1kg 当たり農家売渡価格) は小規模グループ 4113.9 パーツ、中規模グループ 4,057.2 パーツ、大規模グループ 3,362.9 パーツである。平均粗収入から平均総コストを差し引いた 1 ライ当たり平均稲作所得は、小規模グループが 1,999.9 パーツ、中規模グループが 2,102.8 パーツ、そして大規模グループが 1,480.1 パーツとなる (表 5)。

2.4 販売方法

農家が高品質米の出荷先としているのは、精米業者 (41%)、集荷商人 (23%)、農協 (14.7%)、政府組織 (9.8%) などであり、これら出荷先の複合形態もある。農家がこれらを出荷先として選択する主要な理由は、農家から近く売渡価格が高いからである。価格の動向は精米所などの掲示板や知人からの情報から知ることが多い (表 6)。

2.5 調査結果のまとめと若干の補足

以上の結果から、スリン県の農家は、小規模な天水田において自己採種した種子を用い、高品質米を栽培していることが判明した。収穫したコメは精米業者や産地集荷商人に出

表4 調査対象農家におけるコメ栽培の現状

項目	実数	比率(%)
コメの栽培面積(ライ) 平均	25.2	—
最大面積	79	—
最小面積	2	—
栽培面積規模別農家数(ライ)	総数 51	100.0
10 以下	11	21.6
11-20	11	21.6
21-30	12	23.5
31-50	14	27.5
50 ライ	3	5.9
農地の所有別農家数	総数 51	100.0
自作地	39	76.5
借地	2	3.9
自作地および借地	10	19.6
水利用	総数 51	100.0
天水	51	100.0
栽培品種	総数 51	100.0
KDML 105	27	52.9
Kor Khor 15	11	21.6
KDML 105 および在来品種	1	2.0
KDML 105 および Kor Khor 15	12	23.5
品種選択の理由	総数 51	100.0
(1) 高い価格で販売できる	11	21.6
(2) 嗜好性が高い	4	7.8
(3) 気象条件に合致する	15	29.4
(1)+(2)	7	13.7
(1)+(3)	4	7.8
(2)+(3)	5	9.8
(1)+その他理由	1	2.0
(3)+その他理由	4	7.8
種子の入手方法	総数 51	100.0
自己採種	50	98.0
その他	1	2.0
種苗の植付方法	総数 51	100.0
水田に苗を定植する方法	1	2.0
乾田に種子を直播する方法	50	98.0
水田に種子を直播する方法	0	0.0
収量(Kg/ライ) 平均	305.2	—
最高収量	520	—
最低収量	66	—

注1: 1 ライは 0.16ha.

注2: 栽培品種 KDML は Khao Dowk Mali の略称。
出所: 表3 と同じ。

表 5 規模別稲作農家の平均総コスト・平均収量・平均粗収入・平均所得

	全体	小規模	中規模	大規模
平均総コスト (パーツ/ライ)	1983.7	2114.0	1954.4	1882.8
平均収量 (kg/ライ)	305.2	326.5	322.0	266.9
平均売渡価格 (パーツ/kg)	12.6			
平均粗収入 (パーツ/ライ)	3845.5	4113.9	4057.2	3362.9
平均所得 (パーツ/ライ)	1861.8	1999.9	2102.8	1480.1

注1：総コストには、労働コスト、生産コストのほかに土地税および借地代が含まれる。

注2：小規模は16ライ以下、中規模は17-31ライ、大規模は32ライ以上で区分した。

出所：表3と同じ。

表 6 コメ栽培農家の出荷先とその理由および価格情報入手先

項目	実数	比率 (%)
農家のコメ出荷先	総数 51	100.0
農業協同組合 (AC)	7	13.7
産地集荷商人	14	27.5
精米業者	22	43.1
政府組織	5	9.8
家族の消費のみ	3	5.9
出荷先の選択理由	総数 51	100.0
(1) 売渡価格が高い	5	9.8
(2) 農家から近い	9	17.7
(3) 個人的関係がある	1	2.0
(4) 契約栽培	4	7.8
(5) 現金で決済	0	0.0
(6) その他の理由	8	15.7
(1)+配達サービス	1	2.0
(1)+(2)	16	31.4
(2)+(6)	3	5.9
(4)+(6)	1	2.0
無回答	3	5.9
農家の価格情報入手先	総数 51	100.0
なし	4	7.8
近隣の知人	17	33.3
テレビ・ラジオなど	3	5.9
その他 (精米所の掲示板など)	27	52.9

出所：表3と同じ。

荷・販売している。規模別には相対的に中規模グループの1ライ当たり所得が高いが、その理由は必ずしも判然としない。複数の農家に対するインタビュー調査によれば、稲作栽培上の問題は、灌漑・排水施設の不備による用水管理の困難、除草時の労働力不足、病害虫の蔓延などであり、これらの問題を解決するための資金が不足しているということであった。コメは8月中旬に田植え、11月末から12月初めにかけて収穫しているが、コメの収穫後は稲田に堆肥を入れて休閑させ、これとは別に畑では、パラゴム、イモ類(キャッサバなど)、トウモロコシおよびいんげん豆などを栽培している。経営意欲の高い農家は、自作地に借地を加えて稲作規模を拡大し、新しい技術を導入して労働者を雇用している¹¹⁾。しかしながら、借地の農地が狭小で分散しており、大型機械を導入することはむずかしいようである。市場への出荷量も当然ながら規模が大きくなるにしたがい大きくなる傾向がある。大規模な農家に限ったことではないが、稲田ではコメの後作にサトウキビを栽培している農家もある。農家の中にはコメを植え付けた後バンコクへ出稼ぎに行き、収穫時に帰ってくる農家も存在するようである¹²⁾。

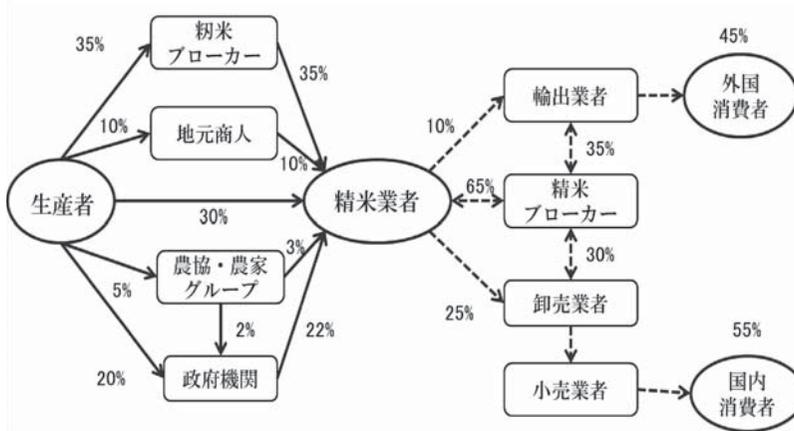
3. コメの流通と価格

農家で収穫されたコメ(粳米)は、産地の集荷商人、粳米ブローカー(産地仲買人)、農協、農業者グループおよびBAACなど政府機関の手を経て、地元の精米業者へ運搬されるが、精米業者が農家の庭先まで行って買い付けることや農家が直接精米業者へ搬入することもある。精米されたコメは、精米業者から精米ブローカーの手を経て地方ないしは中央

の卸売業者へもしくは直接卸売業者が精米業者から買い付けし、その後小売業者から消費者へまたは輸出業者から海外市場へ向けられる。図1はコメの流通経路を表したものであるが、それにはまた流通主体間のコメ取引比率も記述した。普通米と高品質米の間で比率には多かれ少なかれ差異があるかもしれないが、流通経路にはまったく差異がないものと考えられる。ここで重要な役割を果たしているのは、精米業者と卸売業者、輸出業者の間を仲介する精米ブローカーの存在である。精米ブローカーは、卸売業者や輸出業者から取り扱うコメの品種ごとの品質および販売可能量を聞き出し、その情報を精米業者へ伝達する一方で、精米業者からは産地における品種ごとの生産量や品質などの情報を収集して卸売業者や輸出業者へ伝えている。場合によっては、輸送の手配や価格の交渉などにも当たっているようである。

コメの産地価格は基本的に政府が開設している産地の米市場センター(BAACの場内に所在する)で決定されるが、それには様々な要素が考慮される。例えば、粳米を精米したコメの色彩、形状、粒重、固さなどであり、この程度によって価格は大きく左右される。また価格の水準は基本的に市場における品種ごとの需要と供給によって決定されるが、精米業者協会、米輸出業者協会などが提供するほかの産地の市場価格情報や精米ブローカーの価格交渉の結果などを参考にして総合的に判断される。精米業者からの聞き取りによれば、市場価格は輸出価格に連動して決定される度合いが高いようである。同じく精米業者の情報によると、産地価格は新米の出回り期である11月から2月にかけて最も高いが、その理由の一端は、規模の大小はあるものの域

図1 タイにおけるコメの流通経路



注：数値はコメの取扱比率を示す。

出所：Center of Logistics Excellence(2006:166)および Department of International Trade, Ministry of Commerce: Thailand より筆者が作成。

内に数多く存在する精米業者が存在して、農家から出荷される新米の激しい確保競争によって引き起こされているようである(Thongchompu 1999: 43-54)。

ところで、政府は2009年からコメに対する「保証価格制度」を設置した。この制度はBAACに預託金を納めている農家を価格保証契約に登録し、制度適用の対象農家とする。スリン県の場合、同制度による適用枠を20万トンとし、保証に用いる総額を50万バーツとしている。保証価格はコメの平均生産コストにマージン(30~35%)を上乗せしたものであり、市場価格が保証価格を下回った場合にはその差額を登録した農家に支払う。この制度により農家は生産と生計を維持でき、また価格決定の市場メカニズムを歪曲させず長期的な価格安定に資する仕組みとなっている¹³⁾。こうした制度による下支えも、高品質米をはじめコメの生産強化に寄与しているといえよう。保証価格制度が導入される以前は、「粳担保融資制度」を通じて政府の買入枠に沿

い農家や精米業者が粳米を担保に政府(BAAC)から融資を受けるが、その返済義務がないという実質的な価格支持が行われていた。しかしながら、その制度運用による政府の財政負担が大きくなり、不正の温床にもつながっていると伝えられている(室屋2009: 34-48)。保証価格制度は、保証価格と市場価格の差額を補てんする不足払い制度になっている。しかも保証するコメの量と額は予め定められているので、政府の財政負担は小さくなる。とはいえ、限定された保証対象分を除く出荷米は市場価格に大きく左右されることになり、そのリスクを生産者、流通業者および精米業者の間で分担して引き受けなければならない¹⁴⁾。

ここで、インタビューに応じた精米業者とBAAC関係者からの聞き取り内容を紹介することにする。これによって、精米業者とBAACが精米とコメの流通および価格決定において、実態的にどのような役割を果たしているのか、多少なりとも明らかにできるであ

ろう。

東北地方の中核都市コンケン市近郊にある中規模の精米業者 R 社は 1969 年に設立され、近隣の農家 505 戸を対象として一日で粳米 100 トンの処理能力をもつ。農家は水分を 15% まで落として精米業者へ搬送する。輸送方法は、精米業者がピックアップカーで農家から運搬するか、農家自身がバイクあるいは公共のバスなどの手段で精米業者へ運ぶ。精米所に集荷された粳米の 70% は輸出用米でバンコクへ運ばれ、残りの 30% は国内流通用米である。国内流通用米のうち地場消費分は精米して当地で卸売業者、小売業者の手を経て消費者に販売されるが、残りは精米にしてパッキングし国内の各地へ輸送される。精米所では最大 7 カ月まで所内の貯蔵施設で保管される。なお輸出に向けられるコメは 15 日以内に輸出業者と精米業者の間で決済される。

一方、コンケン市内にある BAAC は、コメの買い手と売り手の仲介役になって価格決定の役割を果たしている。農家が持ち込んできたコメの一部をここでサンプル検査し、サンプル米を買い手に見せ、コメの品種と品質を考慮に入れて、価格を決定している。条件として、コメの買い手は BAAC に預金している者が対象となる一方で、コメの売り手である農家は誰でも参入が可能であるが、保証人がいて抵当物件を持っている者が条件となる。BAAC はコメの価格決定という役割に加えて、農家に対する融資事業も行っている¹⁵⁾。

4. 高品質米の輸出拡大戦略

今後、高品質米の輸出を拡大していくために、どのような戦略が考えられるのであろう

か。バンコク中心部に所在する「タイ米輸出業者協会」を訪ね、いくつかの戦略上のポイントを聞き出した。また合わせて輸出拡大にあたっての課題と今後の見通しについても明らかにすることができた。以下、インタビューの内容に基づき、その要点を整理することにする。

タイが、高品質米を含めてコメ輸出の強力な競争相手になるのがベトナムである。タイ産のコメはベトナムと比較して高品質ではあるものの価格が 2 倍ほど高い。ベトナムとの輸出競争で優位に立つために、高品質を維持したままいかに生産コストと輸出価格を低下させていくかが大きな課題である。そのためには、品種改良を行い、食味のよい高品質のコメを増産させることが重要となる。品種改良によって高品質米の栽培に適した地域となった東北地方南部で増産がさらに期待される品種改良とそれを用いた栽培を行うことはいうまでもないが、コメの主産地である中央平原においてそこに適した高品質米の品種改良を行い栽培して、タイ全体として増産の方向を探ると同時にそれぞれの生産地の特徴を活かして、品質に多様性をもたらすことを考慮していかなければならない。品質に多様性をもたせつつ輸出を拡大していくためには、栽培方法と品質管理に複数の基準を設けて輸出米の品質規格を多様化させ、輸出供給の周年化と品質による差別化を図ることが重要である。品質の差別化は、また国内外の消費者の多様なニーズに呼応することになる。

その一方で、生産コストを低下させていかなければならない。生産コストを低下させていくためには、多様なコメ生産の担い手を育て、互いに競争させることが必要である。育成すべき担い手には 3 つの主体が考えられる。

第1は、既存のすでに規模の大きい農家である。水田の購入や賃貸借によって稲作規模をさらに拡大することで機械や施設など固定投入財のコストを引き下げることが経営戦略となる。第2は、近隣の中小規模農家によって形成される営農組合である。メンバー間で栽培協定を締結した機械や施設の共同利用や共同出荷によって生産と流通に関わるコストを引き下げ、「協同の利益」を図ることが経営戦略となる。第3は、民間セクターの組織である。これには精米業者やコメの流通業者などが範疇として考えられる。自ら農場でコメを栽培するとともに農家との契約栽培でコメの生産と販売を集約化していくことが経営戦略となる。こうして形態の異なる生産主体がそれぞれのメリットを活かし、相互に市場競争していく過程で生産コストが引き下げられていくという構図である。

しかしながら、相互に生産コストを引き下げる努力をしても、それによってコメの生産から上がる収益が下落して生産に対する意欲が低下し、経営が不安定になってしまった意味がない。そこで、政府は前述したように、BAACに登録している農業者を対象に平均生産コストに30-35%のマージンが上乘せされる保証価格を設定し、市場価格が保証価格を下回った場合にはその差額を補てんするセーフティガードを設けた。また市場価格を安定させるために政府は常に600万トン規模の在庫を保有している。とはいえ、タイにおけるコメの需給と価格の決定はあくまでも自由市場に委ねられており、政府が市場へ直接介入することはない。

このように、品種改良に基づく増産と生産主体間の市場競争によるコストの低下およびマージンを組み込んだ価格の設定で輸出の拡

大を図ろうとしているが、問題がないわけではない。

2010年の上半期に限ってみれば、高品質米を含めたコメの生産量が減少し、市場価格が徐々に上昇してきている。これに並行して輸出も伸び悩んでいるという¹⁶⁾。これにはいくつかの理由が考えられるが、その主な理由の一つには、コメの収益性が低下し、他の作物の生産に代わってきているということである。コメは基本的に自然条件に左右されて生産が不安定なうえに生産性と所得が他作物に比較して相対的に低い。特に零細規模の稲作農家でそのようにいえる。最近、東北地方ではパラゴムやキャッサバの価格が良好で収入が上がるために、農家はコメの生産からこれらの作物栽培にシフトさせてきている。タイは、輸出競争力を維持するために、これまでに蓄積されてきたマーケティング力を活用してラオスやカンボジアのコメも購入して精米・流通し、輸出業者によって国際市場へ輸出することも戦略として考慮すべきであろう¹⁷⁾。

以上がタイ米輸出業者協会の見解の要点であるが、筆者も多様な生産主体による市場競争を図りつつ高品質米の増産に向かうのが輸出拡大の戦略として至当な方向であると考えられる。一点だけ筆者の見解を加えるとすれば、高品質米の原産地表示や品質表示、トレーサビリティのアクセス確保、GAP (Good Agricultural Practice) の実施による安全性の認証などを、国内ばかりでなく国外の消費者に対しても International Standard に基づく透明性の高い情報開示を積極的に行うことで安心という保証を与えることが、輸出拡大にとって今後ますます重要になるものと考えられる。

5. 要約と結論

以上の内容を要約すれば、次の通りである。

- (1) 近年、タイでは高品質米の消費、生産、輸出が増加してきており、コメ全体に対するこれらのウェイトも高まってきている。またその販売価格および輸出価格も普通米に比較して相対的に高い。高品質米の産地は東北地方南部に集中している。
- (2) 調査対象農家は、小規模な天水田において自己採種した種子を用い、高品質米を栽培している。収穫したコメは精米業者や産地集荷商人に販売している。規模別にみた場合1ライ当たり所得は中規模農家で高い。
- (3) コメの流通では、情報の収集と伝達、価格交渉などの面で精米ブローカーの果たす役割が大きい。またコメに対する保証価格制度は、農家が生産と生計を維持できる仕組みを保証するものであり、この制度も高品質米の生産強化に寄与している。
- (4) 今後高品質米の輸出を拡大していくために、品質を維持・向上させつつ生産コストと輸出価格を低下させていくことが大きな課題となる。そのためには、品種改良に基づく増産と生産主体間の市場競争によるコストの低下およびマージンを組み込んだ価格の設定が必要である。

結論として、嗜好性の高い高品質米に対する国内外の消費増加の傾向から判断すれば、今後とも生産を増加させ需給の均衡を図っていく必要があるが、そのためには生産者の利益が保証される仕組みが強化されなければな

らない。保証価格制度を支え強化していくための財源の確保に加え、増産およびコスト引き下げのための技術革新とその普及、市場流通システムの整備と情報の透明性確保などが考慮されなければならない。さらにベトナムとのコメ輸出競争で優位に立つためには、これまで蓄積されてきたコメ販売のマーケティング力の活用と国際ブランド力の醸成が不可欠と考えられる。

注

- 1) 最新のアジアのコメ事情については(奥山宏 2009: 27-30)を参照。
- 2) FAOSTAT のデータに基づく。 <http://faostat.fao.org/site/609/DesktopDefault.aspx?lang=ja>。アクセス日: 2010年9月22日。
- 3) Isavilanonda, S. and Weerasak, K. (2006: 13)の研究によると、2002年では1人当たり年間コメ消費量は、地方の114kgに対して都市は76kgでしかなかった。
- 4) 2008年の推計値38.1kgは、2002年の高品質米の1人当たり消費量27.4kgに Isavilanonda, S. and Weerasak, K. (2006: 24)が計算した高品質米需要に対する所得弾力性0.132(2002年)と2002-2008年間の1人当たり所得成長率(105.5%, GDPベース, USドルによる経常所得で計算)を用いて算出した。
- 5) thailand.prd.go.th/view_inside.php?id=2688。アクセス日: 2010年9月3日。
- 6) www.mishimaya.co.jp/jyasuminn-exp.htm。アクセス日: 2010年9月3日。稲作専門家の説明によると、高品質米が元来塩類土壌に適しているというよりは、在来の品種が耐塩性のあるものに改良されたのではないかということであった。また、高品質米の主産地である Thung Kula Rong Hai 地区の Land Development Department から刊行されている報告書(2001: 2-41)によれば、主要品種である Khao Dawk Mali 105 および Kor Khor 15 は、土壌中の塩分濃度が0.25~0.5%でも栽培に耐えられるとされている。
- 7) Thai Costume Department の協力を得て Office of Agricultural Economics, Thailand が作成したデータを使用。

- 8) Surin Rice Research Center のスタッフからの聞き取りによる情報と Boonjue, S (2007:2-3) を参照.
- 9) 51 戸の調査対象農家は, Surin Rice Research Center の助言を得て, スリン県を構成する郡の中から高品質米の生産が盛んな 5 つの郡を選出し, それぞれの郡から郡長の推薦を通じて 1 つの村を選出した. さらに, 各村の村長からの助言を得て稲作農家を Accidental Sampling 手法によりランダムに選んだ. すなわち Tha Tun 郡から 9 戸, Sang Kha 郡から 10 戸, Samrong Thap 郡から 11 戸, Lamduan 郡から 9 戸, Sikhorphu から 12 戸の農家を選出した.
- 10) 平均値のみで高品質米生産農家の栽培と経営の実態と特徴を明らかにすることには限界があるが, ここでは 1 次接近としてそれらの内容を概括的に示すことにとどめ, より詳細な分析は今後の課題としたい.
- 11) ラオスやミャンマーの労働者を雇用することもあるという. 彼らの労賃は 1 日 8 時間で 80~100 バーツであり, タイの労賃 200~300 バーツよりもはるかに安価な水準である.
- 12) コメを栽培しているのは高齢者が中心であるが, 聞き取りによると, バンコクへ働きに行った子供の送金で機械を購入し, オペレーターを雇って作業を受諾している農家も存在するようである. 購入する機械は主として耕起や整地の作業に用いる小型のトラクター (手動と動力) である.
- 13) Surin Rice Research Center のホームページを参照 (タイ語).
<http://srn-rrc.ricethailand.go.th/srrc/news/09/tsk.html> アクセス日 2010 年 9 月 6 日.
- 14) 13) と同じ.
- 15) 農家は BAAC にプロジェクト・プランを提出し, その審査を受けて融資を受ける対象となる. BAAC は農家に低利の融資を行うが, 貸付利率は平均で年利 9.75% であり, 返済が期間内に終了する借り手には利率を下げる. 貸付の対象はかつて農業活動に限定されていたが, 最近では家屋の建築や子弟教育など農家生活も貸し付けの対象としている.
- 16) タイ米輸出業者協会の資料によれば, 2009 年 1 月~7 月の輸出量は, 前年の同期間に対比して 26.6% の減少となった. 2010 年も同期間で前年対比 7.0% の減少となった. これは高米価

- 政策で輸出価格が下がらず安価なベトナム産に市場を奪われているからである (日本農業新聞, 2009.8.16). またタイ米輸出業者協会からの聞き取りによると, 中国はタイから高品質米を輸入して, 消費者のニーズに対応して 5kg でパッケージする. しかし, 中国では質の低い国産米を混在させて全体の食味を低下させており, これによって, タイ産のコメは低品質と消費者は感じているのではないかとのことであった.
- 17) 実態として, ラオスおよびカンボジアからタイへ流入するコメは, タイ国内で精米・流通し, 輸出されている. タイ米輸出業者協会の見解は, これをさらに推し進めようとするものである.

References

- 室屋有宏. 2009. 「変貌するコメの国際市場—タイの輸出構造との関連を中心に—」『農林金融』62(8): 34-48.
- 奥山宏. 2009. 「世界のコメ市場とアジアのコメ」『日本貿易会月報』675: 27-30.
- Boonjue, S. 2007. *Changes of Cultivation in an Isan Community in a case of Commercial Jasmine Rice Production in Thung Kula Rong Hai*. Thesis of Master of Art in Development of Sociology Graduate School. Khon Kaen University. (タイ語)
- Center of Logistics Excellence 2006. *Research of Logistics for Thai Rice Project*. King Mongkut's University of Technology. Thonburi Bangkok. (タイ語)
- Isavilanonda, S. and Weerasak, K. 2006. Rice Consumption Patterns and Quality Demand Elasticities. *ARE Working Paper* No. 2579/1. 1-30. (タイ語)
- Land Development Department. 2001. *Study on Farmer Requirement and the Way of Participation in Thung Kula Rong Hai Development, Roi-et Province*, 2-41. (タイ語)
- Thai Rice Exporters Association. 2010. *TREA DIARY*.
- Thongchompoo, S. 1999. *An Economic Analysis of the Supply Response of Jasmine Rice in Thailand*, Thesis of Master of Science (Agricultural Economics), Department of Agricultural Resource Economics, Kasetsart University. (タイ語)